新聞記事

山形大付属博物館の結髪土偶

上半身と左脚「再会」

山形大付属博物館は17日、上半身と左脚部がセットで展示された。

その名の通り髪を結ったような頭部をしている。

上半身は郡や県の郷土博物館を経て1952（昭和27）年から山形大付属博物館へ。左脚部は寒河江市に寄贈され、関連性が示されないまま保管されていた。昨年7月、同市の出土品を調べていた郡山女子大短期大学部の会田容弘教授が同博物館が所蔵する上半身との関連性を指摘。断面の状態や文様から、失われていた左脚部と分かった。

左脚部は同11月に同市から博物館側に寄贈された。上半身は右胸下が右こうで復元されており、同博物館は今後、これを取り除いた上で左脚部を接合して展示する考え。夏には同市での「里帰り展」も計画している。（三浦光晴）

山形大付属博物館の結髪土偶は17日、上半身と左脚部がセットで展示された。その名の通り髪を結ったような頭部をしている。

山形大付属博物館の結髪土偶の上半身（奥）と左脚＝山形市・山形大付属博物館

山形大付属博物館は17日、上半身と左脚部がセットで展示された。その名の通り髪を結ったような頭部をしている。

山形大付属博物館の結髪土偶の上半身（奥）と左脚＝山形市・山形大付属博物館

山形新聞2019年1月18日(24)

山形大付属博物館の修復作業完了

結髪土偶が立った

本社ＣＦ活用　来月から一般公開

離れ離れだった上半身と左脚が結合された「結髪土偶」＝山形市・山形大小白川キャンパス内の付属博物館

「結髪土偶」の背面

山形大付属博物館（山形市）が所蔵し、縄文時代の晩期に作られたとみられる「結髪土偶」。離れ離れになっていた上半身と脚を結合する修復作業が完了した。当初は上半身のみだったが、左脚と首跡的に再会し、修復に向けたクラウドファンディング（CF）では予想を上回る支援が集まった。大正末期の発見から約90年を経て、ようやく土偶が立ち上がった。

3日の同大学内の会見の中で、学芸員が発表した。結髪土偶は縄文時代の晩期（約2400～3500年前）に出現し、県内では真室川町を中心に出土した。

伴雅樹教授と押野美香人・国史学芸員が発表した。結髪土偶は縄文時代の晩期に作られたとみられる。当初は上半身のみだったが、左脚と首跡的に再会し、修復に向けたクラウドファンディング（CF）では予想を上回る支援が集まった。大正末期の発見から約90年を経て、ようやく土偶が立ち上がった。

3日の同大学内の会見の中で、伴雅樹教授と押野美香人・国史学芸員が発表した。結髪土偶は縄文時代の晩期（約2400～3500年前）に出現し、県内では真室川町を中心に出土した。

2609万5千円（166人・団体）が集まった。同